

16 「陸軍軍医学校防疫研究報告」Ⅱ部

— (その一) — その概略について

蒔 昭 三

社団法人石川勤労者医療協会

城北病院

*第二次世界大戦後、GHQは日本陸軍軍医学校から「陸軍軍医学校防疫研究報告—Ⅱ部」を押収。押収された「報告」はその後米国議会図書館に所蔵されていたが一九九一年頃に公開された。それには米国側が解読時に記入したと思われる痕跡が随所に見られるが、今回「陸軍軍医学校防疫研究報告」(全八巻)として日本で出版された。

*概要・議会図書館所蔵原本は陸軍軍医学校図書館の蔵書印がある。総頁数推定一万三・四千頁。当時の「研究報告」の論文数は一号く九百四十七号と推定されるが、議会図書館がマイクロ化する際、七百一号く八百号、九百番代は既に欠落、更にその外に十篇が散発

的に欠落、従ってマイクロに掲載されている論文数は七百九十篇である。

*「研究報告」の成立…『陸軍軍医学校五十年史』には、「防疫研究室は国軍防疫上作戦業務に関する研究機関として陸軍軍医学校内に新設…」。新設に関しては昭和三年海外研究員として滞欧中なりし陸軍一等軍医石井四郎が各国の情勢を察知し我国に之が対応施設なく、国防上一大欠陥ある事を痛感し、昭和五年欧米視察を終え帰朝するや、…之が研究整備の急を要する件を上司に意見具申。…昭和七年小泉教官の絶大なる支援の下に上司の認むる処となり、軍医学校内に同軍医正を首班とする研究室の新設…と記載されている。

この新しく誕生した「防疫研究室」の研究論文は、「石井紀要」などの「経緯」を経て、この「研究報告Ⅱ部」に発表されたと推定される。一号論文は一九三九年十二月十三日受付の陸軍軍医少佐北条園了、雇員田村乙一の「現行陸軍予防接種の効果に関する実験第二回チフス・パラチフスAB及ゲルトネル四種混合予防

接種液の効果に関する実験其二」である。最終(?)は第九四七号で一九四四年三月七日受付の大明明の「細菌の大量培養に関する研究」である。論文は一九三九年から一九四三年のものが主であるが、一番古い論文は四四〇号「陸軍糧秣本廠食中毒ゲルトネル氏菌の生物学的性状に関する研究」(主幹石井軍医正、陸軍一等軍医白川初太郎)で受付は一九三三年六月、最も新しい論文は八九九号「破傷風、瓦斯壞疽人体能動免疫に関する研究」(軍医学校防疫研究室)で受付は一九四四年五月七日となっている。

* 研究分野の概要・論文の研究主題の多いもの順に、各種細菌・リケッチアの基礎研究、石井式濾水機関連、細菌の毒性強化・大量生産・保存法及び鼠・蚤関係の研究、培地の研究、予防接種となり、その他では各国の論文翻訳(「ソ」情報・細菌戦一般・独米英の細菌戦関連文の翻訳等)がある。特徴的なのは細菌の毒性強化・大量生産・保存法の研究、水中での細菌の生存期間の研究など細菌戦実施と関連すると思われる論文が見られること、また人体を使用した実験(三六号、二

一一号、二五二号、六五五号等)が掲載されていることである。

* 論文発表者・所属は陸軍軍医学校防疫研究室(軍陣防疫学教室)が多い。しかし「南支那防疫給水部」「南方軍防疫給水部」「中支那防疫給水部」「二四野戦防疫給水部」「三三師団防疫給水部」「第二防疫給水部」「第五防疫給水部」「北支那防疫給水部」「関東軍防疫給水部」「第一二防疫給水部」「住吉部隊」等と記載の論文もある。研究者の身分は多くは「陸軍軍医〇尉〇〇〇〇」である。しかし「肩書なし」の軍部外の氏名の併記も多い。軍医、「肩書なし」以外の研究者の肩書きは、「嘱託」「陸軍技師」「陸軍技手」「衛生部尉官学生」「陸軍衛生伍長」「甲種学生」「理学博士」「医学博士」「工学士」「ソ連駐在員」「日本特殊工業株式会社」「東京帝国大学伝染病研究所」「慶応義塾大学医学部細菌学教室」「京都帝国大学化学研究所」「京都帝国大学教授陸軍軍医学校嘱託」「金沢医科大学教授陸軍軍医学校嘱託」「陸軍軍医学校嘱託」等である。